

実施日：2022年10月1日（土）9:00～14:30

参加者：3名

学生：1名

教職員：杉山、中澤

学外参加者：2名

#### ■実施場所：高円山

#### ■第7回 高円山の自然

概要：春日山の南に連なる高円山。8月に戦没慰霊のために大文字の送り火の火床がある場所であり、かつて聖武天皇の離宮、尾上の宮があったとも伝えられる山です。春日山原始林と隣接する山ですが植生は大きく異なります。春日山との違いや、自然環境としての現状を確認しつつ、火床からの眺望、山頂までの森林の様子を観察します。

- 9:00 大学生門集合・挨拶・体操
- 10:00 高畑町～高円山登山口
- 11:30 高円山火床到着・昼食
- 12:10 山頂に向け移動
- 13:00 高円山山頂（ホテル跡地）到着
- 13:30 火床まで戻る
- 14:00 滝坂の道方面へ下山
- 14:30 大学到着・解散

#### ■概要報告

参加学生が1名という状況であったが、秋晴れの中、高円山山頂までのフィールドワークを実施した。高円山の登山口までの移動では、大学南側部分の集合住宅が、宅地開発がされていて、景観が大きく変化している点、奈良公園方面へは歩くことがあっても、高畑の住宅街や高円山方面へあることは稀なため、周辺残る古い家屋などを眺めながら歩いた。高円山方面へ登る途中に位置する東山緑地から、鹿垣の跡を確認し、地域の活動団体である高畑自然教室が整備した遊歩道を歩いて、霊園を抜け、高円山登山口まで。登山口には、判読しづらくなっているが万葉集に収められている、大伴坂上郎女の「ますらをの高円山に迫めれば里に下りけるむざさびそこれ」という歌が立て札となっている。高円山に入り、日陰の中を歩くと外よりは幾分か涼しい。周辺の樹木には、シカによる樹皮剥や、イノシシの痕跡などの影響が色濃く現れているのを確認して登り進む。途中の沢沿いでは、ヤマビルも発生していた。高円山は落葉広葉樹の森であるが、途中には、春日山原始林と同様にコジイも見られ、ムササビによる食痕もみられた。また、外来種ナンキンハゼが至る所で発生しており、周辺植生が変化しつつあることを実感した。

火床に到着すると、正面に矢田丘陵と生駒山、手前には本学を確認することもでき気持ち良い景観を楽しむことができた。昼食をとりながら景観を楽しんだ。草地では、クルマバツタやハラビロカマキ

リ、クロアゲハなどもみられた。

昼食後は、高円山山頂を目指して移動。火床を越えるとしばらく緩やかな林道が続き、途中の木の根元には大きな黄色いキノコ（オオワライタケ？）を見つけるなど、周辺の観察をしながら山頂に到着した。山頂は、高円山ドライブウェイと接しており、かつて高円山ホテルがあった場所となっており、一帯は更地となっている。山頂からは眺望があまり良くないため、周辺を確認して下山した。

下山は、火床から北側にルートを取り、春日山との間の滝坂の森へと降りた。少し滑りやすいため転倒することもあったが、無事に下山。本学正門まで戻り解散した。

参加者は、普段、自然の中で過ごすことがないため、貴重な経験であったとのことであった。

## ■写真



高円山火床からの風景



黄色いキノコ、オオワライタケか。



高円山ドライブウェイの展望台には、大伴家持の歌碑がある



高円山山頂にて。ホテルの跡地となっている。